

## 報告事項

### 1 小牧市子育て支援機関連携会議について

#### (1) 小牧市子育て支援機関連携会議とは

##### ア 目的

産婦人科、小児科をはじめとする地域医療と地域保健や子育て支援の現場のスタッフが同じ目線で、育児不安の軽減を目指し、協働して小牧市の子育て支援体制を整備すること。

##### イ 開催 必要に応じて年 1 回程度

#### (2) 令和 2 年度の会議について

##### ア 日時

令和 2 年 1 0 月 2 6 日 (月) 1 4 時 0 0 分～1 5 時 3 0 分

##### イ 参加機関

みわレディースクリニック、エンゼルレディースクリニック、ミナミクリニック、小牧市市民病院産婦人科、小牧市市民病院精神科、春日井保健所、小牧市子育て世代包括支援センター

##### ウ 会議内容

###### 小牧市の現状

- ①「健やか親子 2 1 (第 2 次)」の指標項目について
- ②ハイリスク妊婦における精神科との連携について
- ③グループワーク

「各関係機関における母子の姿とその支援について」

###### ④情報提供

- ・親子連絡票について
- ・受け持ち地区分担について

##### エ グループワークで出された意見

###### スマートフォンなどメディアの普及に伴って見られる母子の姿について

- ・医療機関受診時や保健センターでの乳幼児健診受診時などのさまざまな場面において母親はスマートフォンを操作しているのが多くみられる。
- ・NICU に子どもが入院している母親や小児慢性特定疾患児の母親は病気についてよく調べて知識をもっている。小児慢性特定疾患児の母親は通院が多忙であったり、外出が困難であるなどの要因で病院と自宅の行き来

が主で、頼る先がインターネットになることもある。インターネット上の情報を見てわからないときや不安になったときは関係機関に相談してもらえるのが理想。インターネット以外にも居場所を作れるとよい。

- ・スマートフォンの普及は今後も続くことが予想され、調べた情報が本当に正しいか判断する能力が使う側にも求められると思う。支援者は母親がスマートフォンの情報のみに頼って自己完結することがないよう、悩みを抱え込んでいないかみていく必要があると思う。
- ・（小牧市民病院精神科 佐部利先生より）診療をしていますが、スマートフォンの情報に振り回される人は多いように思う。そういった患者にはスマートフォンと距離を置いたり、自身の感情が安定している状態でスマートフォンを使用するなどを助言している。

#### 外国籍の母子の支援について

- ・近年、ベトナム籍の方は非常に増えていると感じる。父親は日本語が可能だが、母親は日本語が話せないことも多く孤立化し、相談相手がいないことも多い。
- ・通訳を介して母親とやりとりをすると、母親本人の思いが聞くことが難しいと感じる。
- ・翻訳機を介して母親とやりとりをする場面が増えている。翻訳機を介すことで支援者の意図が対象者に適切に伝わり、支援の受け入れが良好になることもある。
- ・対象者には母国独自の文化があることも多く、どこまで尊重すべきか迷う。